

平成19年度第2回愛知県食育推進会議 議事録

1 日時

平成20年3月27日(木) 午後1時30分から午後2時30分

2 場所

愛知県議会議事堂 5階 大会議室

3 出席者

会長及び委員26名

説明のために出席した者 農林水産部次長始め16名

4 議事の概要

(1) 会長あいさつ

今日は、今年度第2回の愛知県食育推進会議を御案内申し上げましたところ、年度末格別お忙しい中を委員の皆様方にはお集まりいただくことができました。心からお礼申し上げますとともに、日頃食育の推進についての様々な形での、御協力、御支援にも重ねてお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

さて食育については、今年度は「あいち食育いきいきプラン」推進の初年度ということになります。いろいろな形で、いろいろな機会、地域、団体で食育推進の御取組をいただき、たくさんの方が上がっているものと思います。とりわけ今年の6月、愛知芸術文化センターで「みんなで進めよう あいちの食育県民大会」を開催いたしましたところ、お蔭様で2,000人という大きな数の参加者を得て盛大に、中身の濃い大会を開催することができました。とてもありがたいことと喜んでおります。こうしたものを通じて食育に対する機運が大きく高まったものと思っておりますし、その場では食育の重要性について共通の認識ができたものと考えているところです。その節には委員の皆様にも御暇財をかけたこと、遅まきながらお礼申し上げます。

ちょうどこの6月は食育月間ですが、この食育月間の中では様々な地域、市町村で「愛知を食べる学校給食の日」という事業も展開されました。地場産品を給食の中で子どもたちに直接味わってもらおうというキャンペーンですが、私も機会があり春日町の小学校に訪問いたしまして、子どもたちと一緒に給食をいただきました。このときは、春日町は「宮重大根」の有名なところですが、この保存会の方も出席いただいて子どもたちと一緒に、楽しく有意義な給食を味わうことが出来、とてもいい経験をさせてもらったと思っております。

加えて10月には、愛知県発祥の食品関連企業の方々の大変な御尽力をいただき、「あいち食育サポート企業団」が設立されることになりました。これは全国の中でも先進事例のものです。企業の方々が率先して豊かな、健全な食生活を実現するために様々な形で御協力をいただくもので、力強い応援団ができたと思っております。このようにこの1年間様々な活動を展開してまいりまして、

一定の成果をあげたものと思っておりますが、こういうものは地道に、継続的に行うことが大切ですので、こうした実績をさらにこれから、いかに充実発展させていくかということに意を用いていかなければならないと思っております。

食育の推進は、県民一人ひとりの心掛けによるものですが、それに期待はするものものもちろん行政、各団体、機関、様々な方々と協力しあって、県民の皆様方の豊かな食生活を応援していきたいと思っております。その意味では委員の皆様方、それぞれの分野のトップリーダーの方ばかりですので、ぜひとも今後ともお力添えをいただきたいと存じます。

今日は、そうした1年間の取組例などを取りまとめたレポート、そして来年度の取組計画等、皆様方には御審議をいただくこととなります。忌憚のない御意見をいただく中で、実りの多い会議にしてみたいと思っておりますので、最後までよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

(2) 会議録署名人の指名

岡林委員と永田委員を署名人に指名

(3) 議事

ア 平成20年版「あいち食育いきいきレポート」について

議長

まず始めに、食育推進計画検討会座長としてレポート作成にご尽力いただいた大羽委員から作成状況の報告と説明をお願いします。

大羽委員

初めてのレポートということで去る3月14日に検討会を開催しました。レポートの内容は後ほど事務局から説明があるので、私からは検討会での意見の概要をお伝えします。

まずレポート全体についての印象ですが、87に及ぶ取組事例が掲載されているが、よくまとめられているという意見が多くありました。また食育を推進する者にとって、自分と同じ分野でどのような取組がされているか、他の分野ではこんなことをしているのかといったことが分かってもらえる。参考になるのではないかと思います。

52ページからの数値目標は最新のデータがとりまとめられている。項目によってバラツキはあるが全体として改善の方向にあることが明らかになっている。

56ページからの次年度に向けてでは、最近の食あるいは食育に関する情勢が記述されており委員の皆様もぜひ参考になさってはどうかと思います。

【事務局の説明】

資料1及び2により説明。

【意見等】

A委員

レポート 57 ページの「特定健康診査・特定保健指導の実施」について、これについては栄養士会でも昨年 1 年間、指導する立場でいろいろな取組をしてきた。「県医師会及び県歯科医師会では」と記述しているが、私ども以外の団体でもいろいろな取組を行っていると思う。頑張っており組んでいるので「〇〇等関係団体では」というように配慮していただけるとよいが。

議長

事務局どうか。

事務局

そのようにさせていただきます。

B 委員

検討会にも参加しておりよくできたレポートと思うが、少し補足させていただきます。私どもはこの会議のメンバーの中では純然たる民間企業だが、1 企業やチェーンで普及を行っても広がり生まれません。知事からも紹介があったが愛知県発祥のメーカー 7 社とユニーがこぞって「あいち食育サポート企業団」を結成した。レポート 51 ページにあるが、昨年 10 月に知事に報告に伺った。さっそく実験段階からスタートして、たとえばカゴメさんでは、店舗の催事場を利用して子どもたちが選んだ野菜をジュースにかけ、ジュースの味を試してもらった。楽しみながら野菜のおいしさや栄養素をその場で勉強してもらった。また、敷島パンでも野菜やハムなどの具を持ってきてサンドイッチを作ってもらい、同じように栄養素等について勉強してもらった。4 月から本格的に 8 社が合同でやっていく。まだスタート段階だが、ある程度汎用性の高い食育の啓蒙、体験活動をこの中でパッケージとして作り、まずはチェーンストアの各社、いずれはスーパー、GMS 等の店頭で繰り広げられたらいいと思っている。

C 委員

次へのお願いになると思うが、今回のレポートについては趣旨の説明等大変よろしいと思うが、最終的に食育の定着は 56 ページの次年度に向けてにもあるが、家庭へどう降りていくかであり、たとえば事例の紹介されている取組団体とか子どもたちは意識が高まると思うが、それが一般化されていかないと、根本的な食育の向上につながっていかない。となるとレポートを通して、県民意識がどうなのか捉え、深まりや成果を検証していくことについて次の段階として、やっていただけるといいという感想を持つ。最後は家庭をどうしていくかということだと認識している。

議長

今食育や環境などいろいろな問題があるが県民一人ひとりの方が意識を変えて、ライフスタイルを変えないと進んでいかない。そのやりかたはいろいろあると思うが、事務局から意見ありますか。啓蒙の仕方、普及の仕方は難しい面があると思うが。

事務局

手法や啓蒙の仕方によってどのように効果的な食育の推進ができるのか検討していかなければならないと思っている。来年度のレポートではそういうことも考えていきたい。

また家庭への程度食育が広まったかについても数値目標等で、来年度以降県政モニター、消費生活モニターなどで把握していきたい。

D 委員

本日お配りした資料をもとに若干説明させていただきたい。「JA グループ愛知 未来をひらく「食と農」の活動」は、県内 20 の農協全ての代表的な「食と農」の活動を紹介している。もともと農業者、農業団体は安全・安心な農産物を安定的に供給しているが、それと併せ、こういった「食農教育」の活動も行っている。「フレ愛知通信」について説明させていただくと、県内 JA の産直センターでは朝採りの新鮮な野菜等を地産地消で提供しており、その所在地等を一覧で紹介している。この資料は NHK 始め様々な施設に置き、子ども連れの方などに野菜について学習していただきたいと思っている。野菜の選び方や野菜の作り方等の紹介、このままでは廃ってしまう伝統野菜や郷土料理の紹介も行っている。また、資料はないがレポートの中でも紹介されている「あいちの農業」という冊子を毎年 8 万部作成し、県内小学校 982 校の 5 年生の教材として 7 年前から全 5 年生に配布している。愛知県が全国一番の生産量・額を誇る作物や伝統料理、郷土料理等についてもぜひ理解してほしいということで、毎年中身を見なおし、愛知県農業振興基金の協力をいただきながら作っている。

E 委員

本日ランチョンマットを配布させていただいた。私どもの協議会は、今年度「朝食をしっかりと食べよう」という県内統一テーマで、児童生徒だけでなく家庭・地域に向けて様々な取組を行ってきた。啓発のための教材として、昨年秋の農林水産フェアでランチョンマットのこのデザインで三角ポップをつくり、お母様方に配布したところ大変好評だった。20 年度はランチョンマットにしてみた。表が和食、裏が洋食になっている。(それぞれの料理を) この位置に置き、箸も正しく置くことでマナーも学べる楽しい教材である。もしこれを参考に委員みなさんの中で何かしていただけたらと思い配布した。

本年度県内 10 名の栄養教諭が頑張ってくれ、学校給食の食べ残しの減少、朝食欠食率の減少、保護者の食に関する事業への参加率の増加、地場産物活用率の増加など大変効果をあげた。協議会として「朝食をしっかりと食べよう」というテーマで啓発活動を行った結果をレポートでも報告したが、主食だけだった朝食がおかずも組み合わせて食べられるようになったというデータが出ているので、これからはしっかりとやっていこうと思っている。

20 年度は栄養教諭が増え、この「朝食をしっかりと食べよう」というテーマについても子どもたちの個々の状況を把握して具体的な指導ができるのではないかと考えている。

これだけでなく学校給食へ地場産物や伝統産物を積極的に活用し、郷土食など食文化の伝承にも着目して、22 年度までに数値目標が達成できるよう頑張っていきたい。

F 委員

薬剤師会は健康食品について正しい知識を持っていただくような普及啓発活動を行っている。

会の活動とは別に私は現在デイサービスを行っているが、管理栄養士や調理師の方に、おひなまつりにちらし寿司を作ろうと呼びかけたら、みなさん小学生5・6年生から中学生のお母さんだが、ちらし寿司の作り方を知らなかった。当然そのお子さんも知らないまま成長すると思うが、30代、40代のお母さん方に伝統食を伝えていくようなことをやっていただけると、家庭の中で楽しんで食事ができるようになるのではないかと思う。

G委員

46ページに私たちの活動が載っているが、平成15年から「輝きネット・あいちの技人」としていろいろなことができる人たちを認定している。現在135名の技人が誕生しており、18年度は250件以上の活動が行われている。伝統食に関する技術などに力をいれているが、今年はまだ多くの活動が報告されると思う。

もう一つ「農とくらしの研究発表大会」について、昭和46年から始まり今年が36回目となる。県内のグループ員が一堂に会し、日ごろの活動を発表しているが、グループの活動の充実と組織の強化を目的としてやっている。技人としてこれらの活動の中から自分たちにしっかり身に付いた技術を人に教えることの喜びを感じている。輝きネットとしては45周年を迎え高齢化しているが、高齢者だからこそ戦後の貧しかった時から何もかも恵まれた時代を過ぎて、今の食育の時代に入っているということを知っていると承知している。農畜産物の加工、伝統食や手工芸等を通して農業をやってきた者しか分からない、昔から今に伝わることなどの勉強会をしていきたいと思っている。

いろいろなところで子どもさんを主体にした勉強会が多く行われているが、お母さん方こそ食育が大切だと思う。小学校のPTAのお母さん方や保育園のお母さん方を中心に、たとえば地産地消はこういうものだよ、ということをしっかり教えてあげていきたい。輝きネットとして長い間勉強してきたことは、素晴らしいことだと自負している。これからもずっと頑張っていきたいと思う。

議長

ぜひ県内で広めていただいて、若いお母さん方にも広めていただけるとありがたいと思います。

H委員

「体験型食育企画」への参加が増えており、親子連れで参加していただいている。子どもだけではなくお父様やお母様と一緒に食育について考える活動に参加する方が増えている。田植えや稲刈り、いろいろなものを作るという企画には、生産者、メーカー、JAの皆様の協力がないと成り立たない。生産者、流通業者の方たちのネットワークの中で食育ができているということを実感している。そういうことを行政の方でもこういう形でまとめていただいて、これからも継続的にやっていくという方針を出していただいた。それを励みにしてこれからも地道な活動をしていきたいと思う。ぜひこのネットワークを大事にしていきたいと思う。

I委員

皆様の活動をお聞きして私たちももっとやらなければと思っている。輝きネットさん

には頭が下がります。年間の活動は食に関する取組も多くなっている。若い人は少ないが、60代、70代の会員は若い人の分の食事も作っているという人が多い。食や環境について前向きに取り組んでいくが、19年度の活動を踏まえ、20年度も学習を進める。

食のゼミナールという取組を行っている。毎年100人以上の参加がある。生産者と消費者でよい食品を生み育てようということで、お互いに直接話せる機会を持っている。19年度は植物油について学んだ。50代から70代の方の参加が多かったが、自分の家族のために真剣に頭の中に入れていただいていた。

先ほど朝食の話があったが、私も県内3ないし4地区で（展開している）元気が出る朝食運動に関わっている。食に携わっている方に集まっていただいて、朝食づくりは手間をかけるのではなく、よく考えておいしく早く安全に作るんだよということをレシピを持って伝えている。まっさらな朝は朝食で目覚めるということをしかりと伝えているつもりです。

消費者協会では、子どもたちの料理教室を毎年開催している。19年度も地場産のお米などの食材を使って取り組んだ。また、始めに箸袋作りを行ったところ、子どもたちは様々な絵を描いたり、言葉を書いたりそれぞれが思いを寄せせて素晴らしいものが出来た。作ることは楽しいということを感じてもらった。次世代の子どもたちへも食育の意識を高める架け橋になればと、小さいことだけれど取り組んでいる。

また、地場産の野菜について朝たくさんあったものが夕方にはすっかりなくなっているということをよく聞く。地場産のものをという意識が浸透してきているのではないかと話し合っている。ギョーザ事件以降、皆さん家庭で作ろうと考えていると聞く。このことは大変うれしい。今後とも実践していくに当たっては、仲よく楽しい活動でありたいと思う。

議長

多くの方から御意見をいただきましたが、ここでお諮りします。A委員からご指摘いただきました57ページの第2段目の部分を修正することとし、あいち食育いきいきレポート（案）は了承いただけますか。

委員

異議なし。

イ 平成20年度における食育推進の取組について

【事務局の説明】

資料3により説明。

【意見等】

議長

ただ今、20年度における県とそれぞれの団体の食育推進の取組みについてご報告させていただきました。すでに議題1で多くの団体のみなさんから御報告いただいておりますが、追加で御説明いただけることがありましたらお願いします。

(委員から意見等なし)

すでに御報告いただきましたので、それでは20年度は県並びにそれぞれの団体に積極的に取組を進めていただきたい。また、横のつながりも持って県内全域で、県民運動につながるような取組をしてまいりたいと考えておりますので、ぜひみなさま方のお力添えをお願いします。

ウ 平成20年度愛知県食育推進会議の開催等について

【事務局の説明】

資料4により説明。

【意見等】

議長

ただ今、平成20年度の愛知県食育推進会議の開催予定とレポートの作成方針等について説明いたしました。御意見、御質問等ございましたら伺いたしたいと思います。

(委員から意見等なし)

それでは、この方向に沿って進めてまいります。途中で何か問題あれば皆さん方と相談しながら進めていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

エ その他

【事務局の説明】

参考資料について説明。

議長

以上で予定しておりました議事はすべて終了いたしました。この際何かご意見等ございましたら伺いたしたいと思います。

(委員から意見等なし)

それでは、これをもって第2回の食育推進会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

(署 名 人) (印)